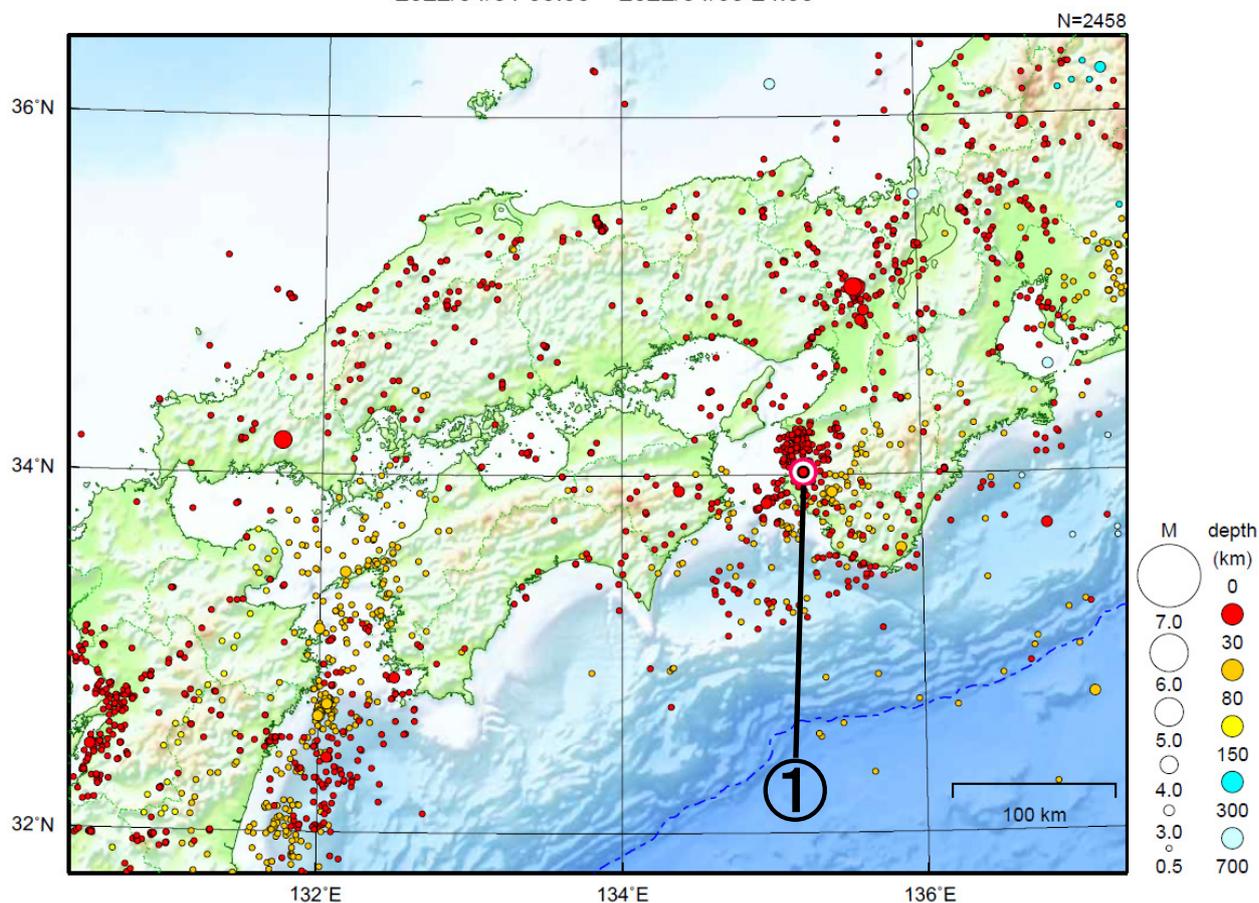


近畿・中国・四国地方

2022/04/01 00:00 ~ 2022/04/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 4月6日に和歌山県北部でM3.6の地震（最大震度4）が発生した。

（上記期間外）

- 5月2日に京都府南部でM4.4の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

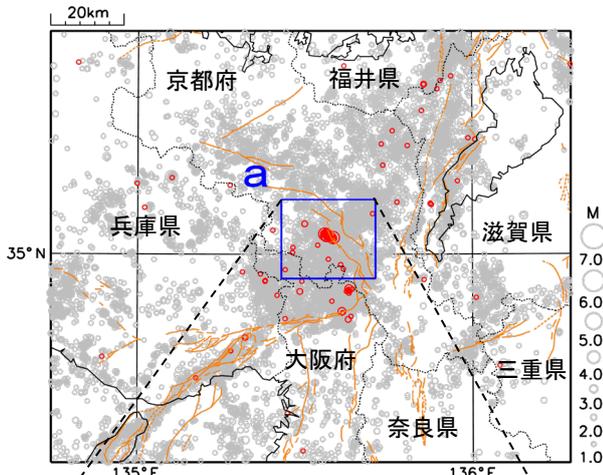
気象庁・文部科学省

京都府南部の地震活動

震央分布図

(1997年10月1日～2022年5月4日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)

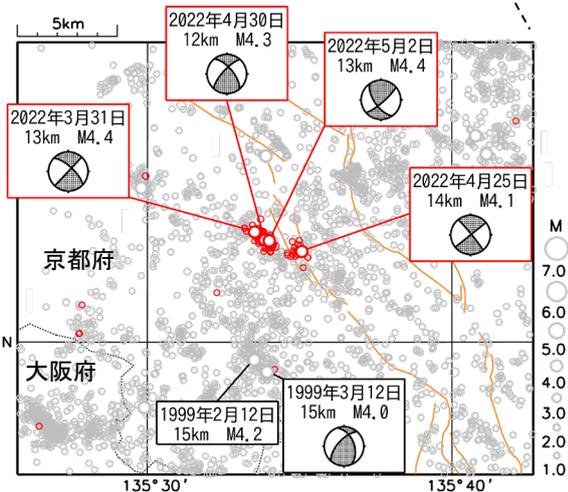
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



京都府南部では、2022年3月31日から地震活動が活発となり、5月9日08時までには震度1以上を観測する地震が14回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：2回、震度1：8回）発生している。このうちM4.0以上の地震は4回発生しており、最大規模の地震は、3月31日及び5月2日とともに深さ13kmで発生したM4.4の地震（ともに最大震度4）であった。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震の震央付近（領域a）を拡大してみると、震源は西北西-東南東方向に分布してみえる。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M4.0程度の地震が時々発生している。このうち今回の活動のように、1ヶ月ほどの期間内にM4.0を超える地震が複数回発生するような活動は、今回の活動域のやや南側でも1999年2月から3月にかけて発生している。

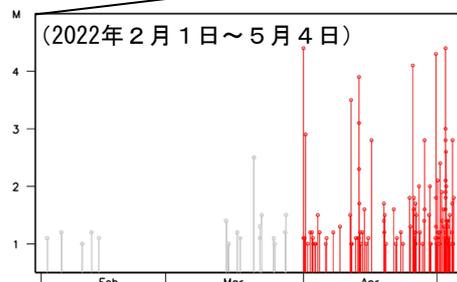
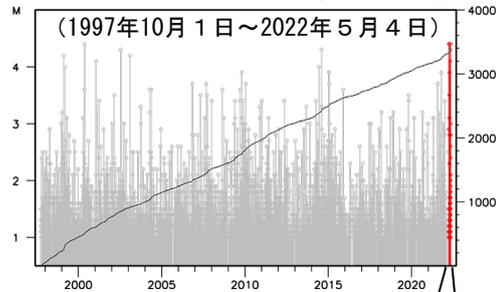
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震も発生しており、2018年6月18日には大阪府北部の地震（M6.1）が発生し、死者6人、負傷者462人などの被害が発生した（2019年4月1日現在、総務省消防庁による）。



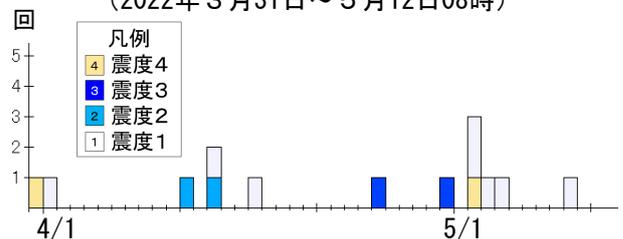
(上図) 領域a内のM-T図及び回数積算図

(下図) 領域a内のM-T図

2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



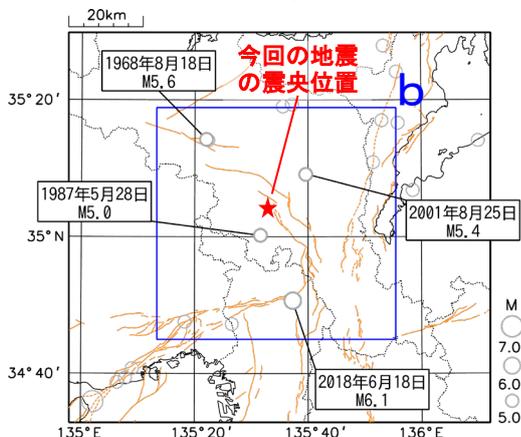
震度1以上の日別最大震度別地震回数図
(2022年3月31日～5月12日08時)



気象庁作成

震央分布図

(1919年1月～2022年5月4日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



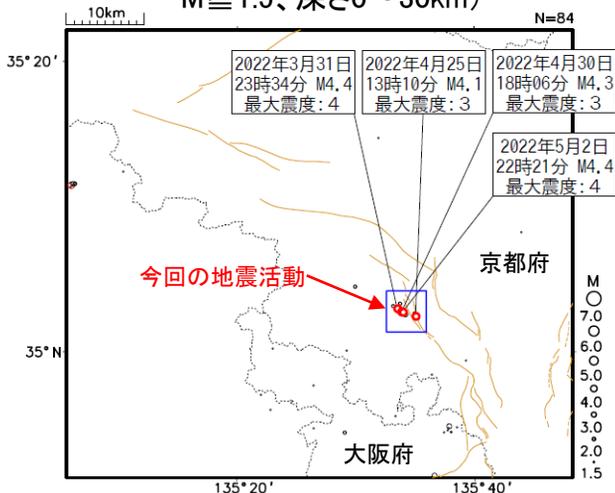
震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

京都府南部の地震活動 (周辺の続発事例)

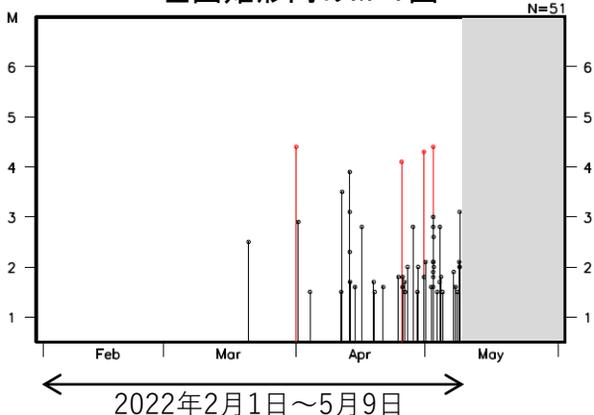
震央分布図

(2022年2月1日～2022年5月9日、
M \geq 1.5、深さ0～30km)

M4.0以上の地震を赤丸で表示

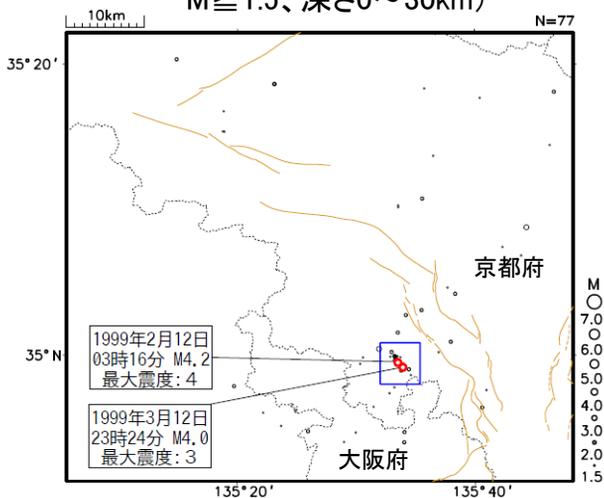


左図矩形内のM-T図

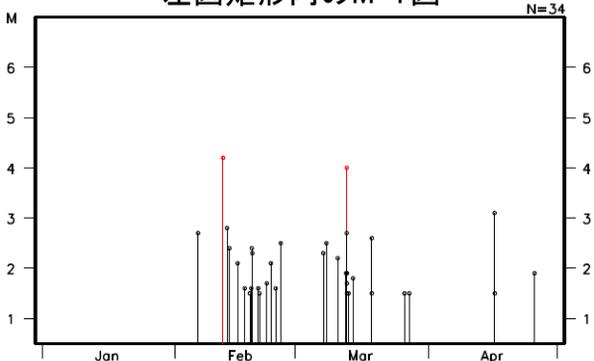


震央分布図

(1999年1月1日～1999年4月30日、
M \geq 1.5、深さ0～30km)

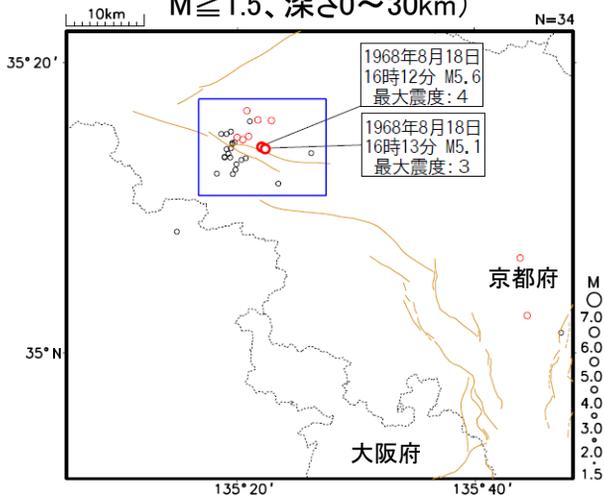


左図矩形内のM-T図

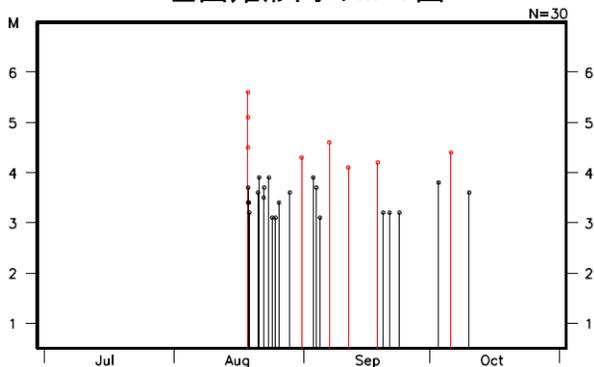


震央分布図

(1968年7月1日～1968年10月31日、
M \geq 1.5、深さ0～30km)



左図矩形内のM-T図

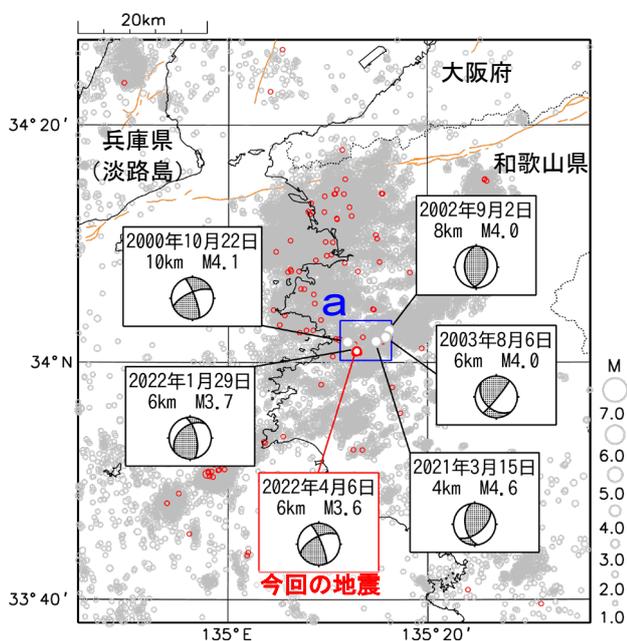


震央分布図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層帯を示す

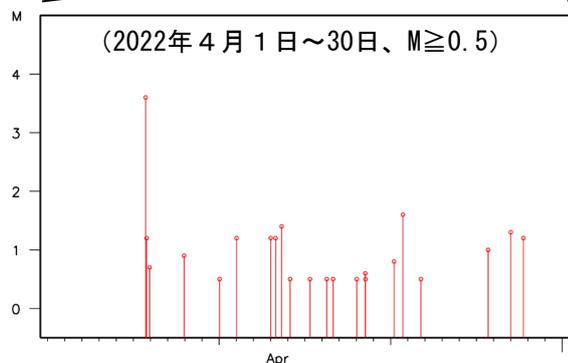
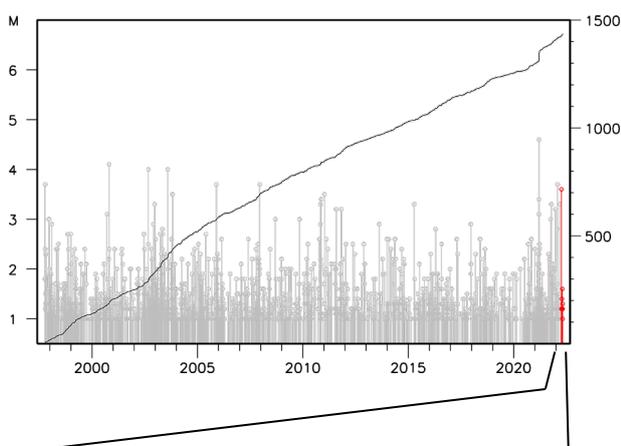
4月6日 和歌山県北部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2022年4月30日、
深さ0～20km、M \geq 1.0)
2022年4月の地震を赤色で表示



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



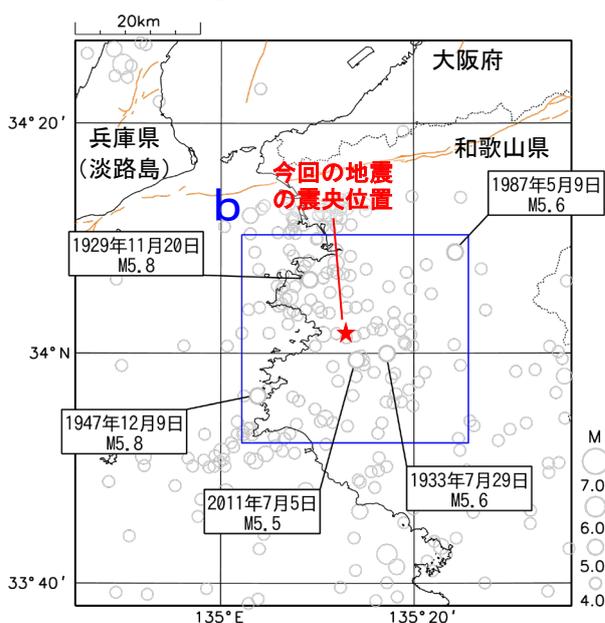
2022年4月6日17時14分に和歌山県北部の深さ6kmでM3.6の地震(最大震度4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震の震源とほぼ同じ場所では、2022年1月29日にもM3.7の地震(最大震度3)が発生している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域a)では、M4.0程度の地震が時々発生しており、2021年3月15日にはM4.6の地震(最大震度5弱)が発生している。

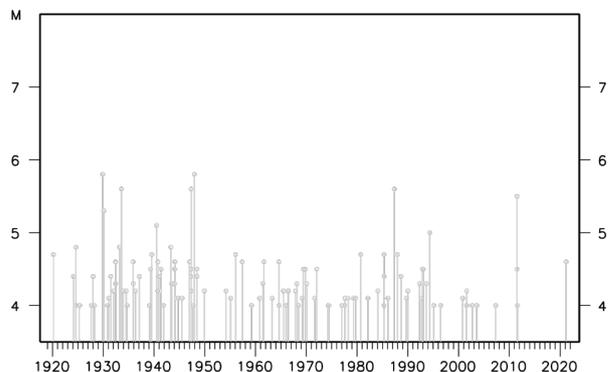
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M5.0を超える地震が時々発生しており、最近では2011年7月5日にM5.5の地震(最大震度5強)が発生し、住家一部破損21軒などの被害が生じている(総務省消防庁による)。

震央分布図

(1919年1月1日～2022年4月30日、
深さ0～40km、M \geq 4.0)



領域 b 内の M-T 図



震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。